

さく花におもひつくみのあぢきなさ身にいたつきのいるもしらすて

〔倭訓栞前編三〕いたづき 物にいたづき聞えさせたまふなどいへり、煩勞の義也、痛竭の訓意成

べし、よて日本紀に勞竭の文字を用ゐ、又不煩をいたづかすとよめり、

〔古京遺文〕藥師佛造像記

池邊大宮治天下天皇大御身勞賜時歲次丙午年略○中然當時崩賜造不堪者小治田大宮治天下大

王天皇及東宮聖王大命受賜而歲次丁卯年仕奉、

右藥師佛像在法隆寺金堂天平廿年法隆寺資財帳載之記在光焰背、

〔倭名類聚抄三〕疹 說文云疹徒冬反訓動痛也、

〔箋注倭名類聚抄二〕昌平本下總本無訓字按新撰字鏡同訓醫心方疹痺酸並亦同訓古事記神武

天皇御歌久知比々久即是今云宇豆久契冲曰疹與響同語略○中原書無疹字按玄應音義云疹又

作疹痲引說文云痲動痛也則知疹俗痲字今本說文痲字注作動病也非是釋名疹痺也氣疹々然

煩也、

〔增補下學集上二ヒ、ラク〕疹

〔倭名類聚抄三〕痲臥 日本紀私記云痲臥和名字江不

〔箋注倭名類聚抄二〕痲臥見景行四十年紀按說文痲病也痲臥猶言病臥非病名也下總本乎作字

那波本同按日本紀旁訓釋日本紀並作乎伊呂波字類抄亦痲臥在乎部則作字者字形近似而誤

也古事記倭忽爲遠延神武紀瘞訓乎江奴仁德紀被蛇毒傍注私記云乎呂千二乎也左禮天並可

以證也、

〔伊呂波字類抄於瘡〕痲臥ガエフセリ

〔古事記神武〕故神倭伊波禮毗古命從其地廻幸到熊野村之時大熊髻髷出入即失爾神倭伊波禮毗

痲

疹